

東京都マーケットレポート

東京都自整業市場 最近1年間の動き

中小企業診断士 石井克巳



1 自動車販売関係…伸び悩み傾向強い、とくに中古車

まずは新車市場ですが、次のグラフ1を参照してください。

このグラフは、東京都と全国の新車販売台数前年同月比増加率の月別推移を対比、その動きをまとめたものです。

新車販売台数は、東京都、全国いずれも'05年後半に落ち込み、'06年に入り持ち直したものの、4月以降再び下降局面に入っています。東京都の場合、落ち込み幅はおおむね小幅で推移しています。

'05年11～12月および'06年4～6月の落ち込みは、前年同期間の増加率上昇の反動減で特殊要因によるものと見られますが、'06年7月の落ち込みは基調変化の兆しかもしれません。

ちなみに、この上昇率上昇の背景には、台風・

集中豪雨などの被害車両の買い替え需要発生があったものと見られます。

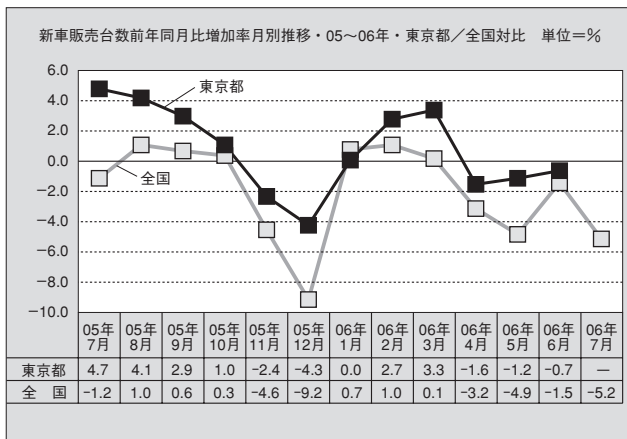
国内新車販売市場、とくに、乗用車は、'05年10月以降10ヵ月連続マイナスが続いていますが、このところマイナス幅は拡大傾向にあり、先行きの見通しに不透明感が増しています。ここしばらくは目が離せないでしょう。

次に、増加率の動向を車種別に見たのが、グラフ2のとおりです。

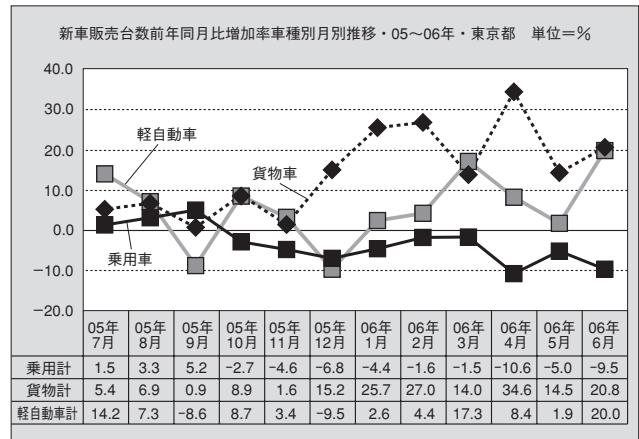
貨物車・軽自動車はプラス基調、乗用車はマイナス基調と明暗は分かれています。

この結果を年間で見た増減動向はグラフ3のとおりです。

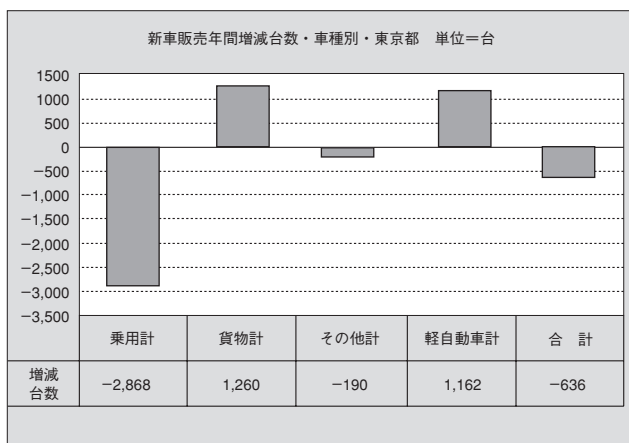
グラフ1：新車販売台数前年同月比増加率月別推移
東京都／全国対比



グラフ2：新車販売台数前年同月比増加率車種別月別推移
東京都



グラフー3：新車販売車種別年間増減台数
東京都

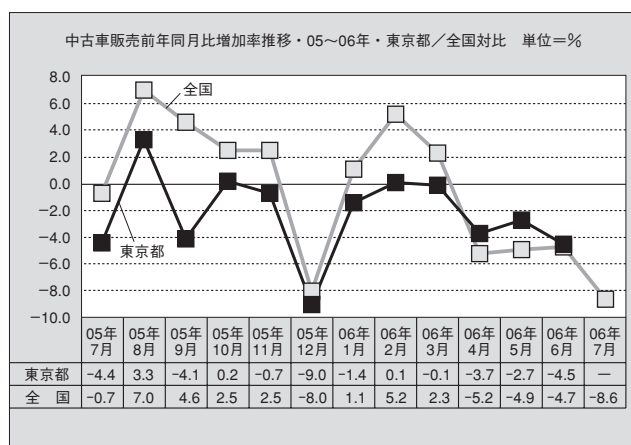


次は中古車市場ですが、次のグラフー4を参照してください。

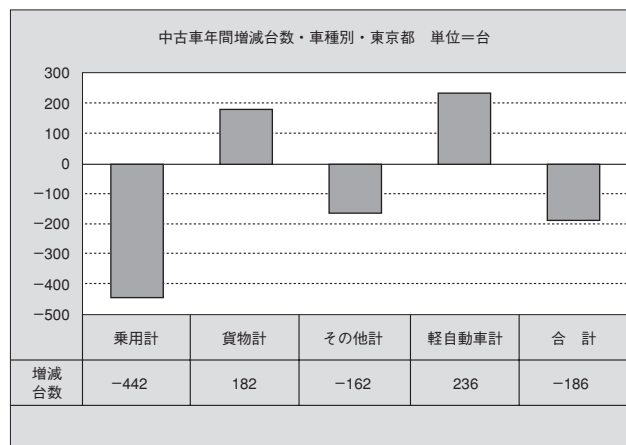
変動パターンは新車と似ていますが、新車とは逆に東京の方がおおむねマイナス領域にあり、全国を下回る展開になっています。

なお、年間車種別増減台数はグラフー5のとおりです。

グラフー4：中古車販売台数前年同月比増加率月別推移
東京都/全国対比



グラフー5：中古車販売車種別年間増減台数
東京都



2 保有台数の動向…東京都は1年半ぶりにマイナスに

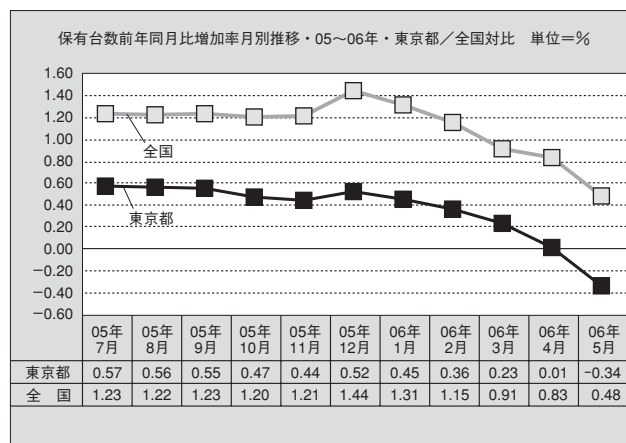
最近1年間の保有台数前年同月比増加率の月別推移は次のグラフー6のとおりです。

'06年に入って全国的にも減速傾向にありましたが、5月には急減速し増加率は0.48%まで低落、東京都の場合はマイナス0.34%と減少に転じています。

東京都の保有台数減少は'05年1月以来1年半ぶりのことですが、全国53支局中のランキングも51位に低下、再び最下位層に転落しています。

ちなみに、増加率がマイナスの支局は'05年2月から'06年2月まで1年間皆無でしたが、3月には北海道地区の旭川・釧路・北見の3管内がマイナスに転じ、4月には同札幌、5月には函館が加わ

グラフー6：保有台数前年同月比増加率月別推移
東京都/全国対比



り合計5管内がマイナスとなったほか、青森、東京、大阪、高知の4管内、合計9管内に拡大しています。

一方、ランキングベスト10のメンバーにも異変が生じています。

まず、第1位沖縄と第2位滋賀の順位が逆転しましたが、これはデータの比較が可能な'00年以降では初めての事です。

次のベスト10上位の常連だった茨城と同下位の常連だった三重がともに圏外に落ちています。茨城は'04年3月以来、三重は'05年10月以来の事です。かわって岡山が登場、鹿児島が再び咲いています。鹿児島は'05年3月以降ほとんど常連ですが、岡山のベスト10入りはデータの比較が可能な範囲内では初めての事です。特殊要因があるかも知れませんが、地殻変動の兆しかも知れません。

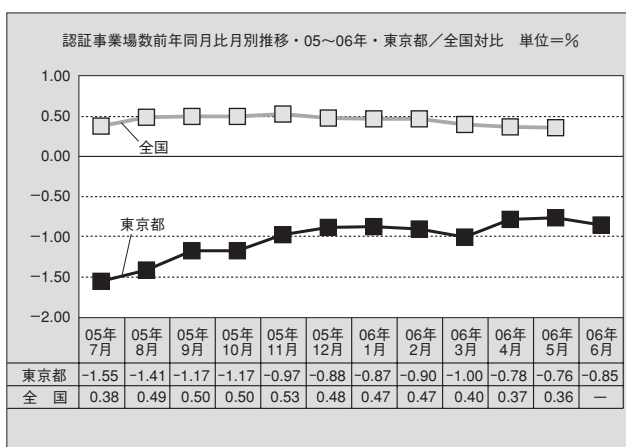
3 認証事業場数の動向…減少幅は縮まっているが

認証事業場数については、全国レベルでは、後半沈静傾向が見られ、新規参入圧力はやや弱まっていると見られますが、前記の保有台数増加率の鈍化にともない、この程度の増加率でも需給ギャップの逆転が懸念されます。

東京都の場合、減少幅は徐々に縮小する傾向も見られますが、現在程度の減少が続き、また、保有台数のマイナス幅が大きく拡大しない限り、需給ギャップ逆転にまでは至らないでしょう。

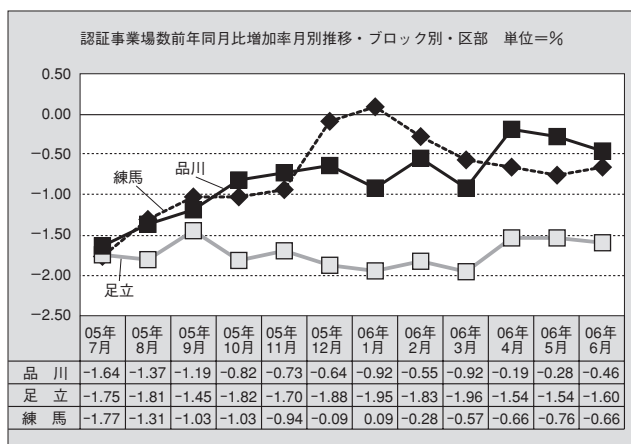
東京都のブロック別推移はグラフ8および9のとおりです。区部での動きは三者三様ですが、品川・練馬両ブロックの右肩上がり傾向に比べ、足立ブロックの超低空飛行ぶりが目立つところではないでしょうか。多摩地区では、多摩ブロック

グラフ7：認証事業場数前年同月比増加率月別推移 東京都/全国対比

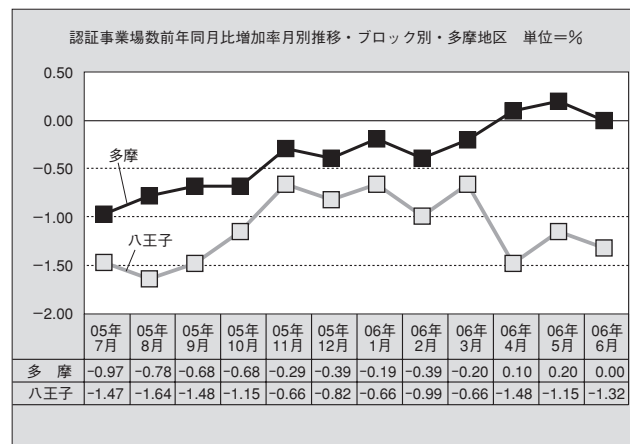


が'04年3月以来1年3ヵ月ぶりにプラスに転じているのに対し、八王子ブロックでは減少幅は拡大、対照的な動きと言えるでしょう。

グラフ8：認証事業場数前年同月比増加率月別推移 ブロック別・区部



グラフ9：認証事業場数前年同月比増加率月別推移 ブロック別・多摩地区



4 指定事業場数の動向…横ばいに戻る

最近1年間の指定事業場数前年同月比増加率の

月別推移は次のグラフ10のとおりです。全国レ

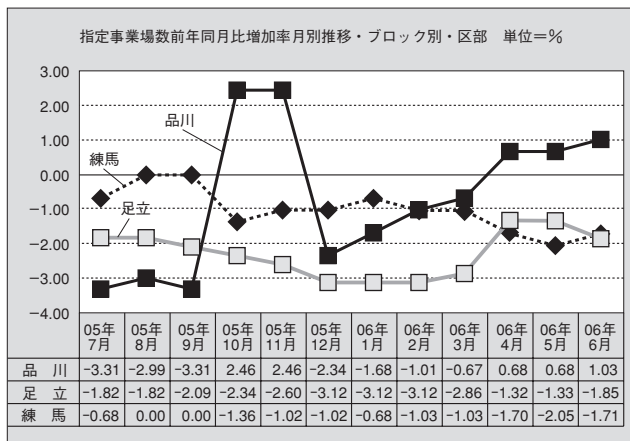
ベルでは、一時より沈静化したとはいえ、0.5～1.0%の幅でほぼ横ばいに推移していますが、東京都の場合は、前半はマイナスが続いていましたが、今年に入り右肩上がりに推移、ほぼ横ばいの推移に戻っています。

'86年前後のような、年率4～5%といったブームの再来はないものと思われていますが、'03年11月以来のマイナス基調からは脱しつつあるようです。

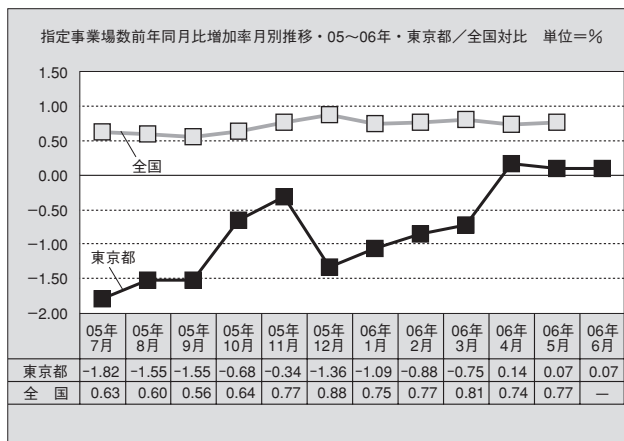
東京都のブロック別推移はグラフ11および12のとおりです。

品川ブロックがプラスに転じているのが目立ちますが、足立・練馬両ブロックの減少傾向は強まっているものと見られます。多摩地区では、後半いずれもプラスに転じていますが、とくに、多摩ブロックの増勢の根強さが目立つところでしょう。

グラフ11：指定事業場数前年同月比増加率月別推移
ブロック別・区部

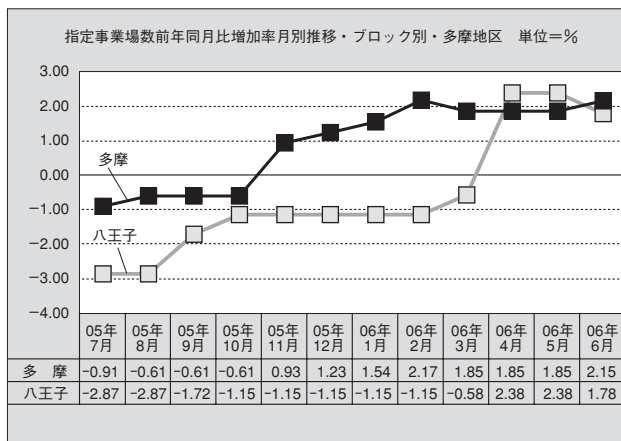


グラフ10：指定事業場数前年同月比増加率月別推移
東京都/全国対比



いずれにしても、継続検査台数の頭打ち、マイナス基調が明らかなこともあり、指定事業場数の増加は需給ギャップの逆転に直結するものと見なければならぬでしょう。

グラフ12：指定事業場数前年同月比増加率月別推移
ブロック別・多摩地区



5 まとめ…おおむね平穏な1年だったが

この1年間は、需給両面にわたって比較的順調だったと評価できるでしょう。

しかし、最後になって若干の懸念材料が出てきています。

需要側面で販売市場の低迷が深まり、先行き不透明感が増していることと、保有台数の増加率に急ブレーキがかかってきていることが懸念材料になっています。

とくに、東京都市場の場合、認証事業場数の減

少が続いていることで需給バランスが均衡を保っている、いわば「縮小均衡」にあるだけに、保有台数の減少傾向が続けば、需給バランスは失われる恐れは大きいと見なければならぬでしょう。

'05年以来需給バランスは緩和傾向にありましたが、微妙な段階を迎えているのかも知れません。

当面、需給両面にわたって市場動向への注目が必要ではないでしょうか。